

TOKAS Project Vol. 6



凧ぎ、揺らぎ、 Swaying Calmly, Gazing Quietly

2023年10月7日(土)～11月12日(日)

トーキョーアーツアンドスペース本郷

—都市と文化を見つめる TOKAS とケベック州との交流記念展

トーキョーアーツアンドスペース(TOKAS)では、2001年の開館以来、海外のアーティスト、キュレーター、アートセンターや文化機関などと協働して展覧会や関連プログラムを実施してきました。2018年より開始した TOKAS Project は、国際的な交流を促進し、多文化的な視点を通じて、アートや社会など、さまざまなテーマについて思考するプロジェクトです。本展はカナダ・ケベック州政府在日事務所設立 50周年と、TOKAS とケベック州との本格的な交流 5周年を記念し、これまで TOKAS のレジデンス・プログラムに参加したケベック拠点アーティストを中心とした交流展を開催します。

TOKAS とケベック州との交流は 2015年にさかのぼり、以降、毎年ケベックを拠点とするアーティストを受け入れてきました。そして、2017年より正式に協定を結び、1年に1組ずつ相互にアーティストの派遣を行っています。2022年度までに、15組のケベック拠点アーティストが TOKAS レジデンスで、また、4名の日本人アーティストがモントリオールのセンター・クラークでの滞在制作に参加しました。本展ではそのなかから、都市の移り変わり、それに伴う文化や環境への順応を見つめた4組の作家による作品を紹介します。

■ 展覧会概要

展覧会名: TOKAS Project Vol. 6 「凧ぎ、揺らぎ、」

英語タイトル: TOKAS Project Vol. 6 “Swaying Calmly, Gazing Quietly”

参加アーティスト: ジャン＝マキシム・デュフレヌ&ヴィルジニー・ラガニエール、ミシェル・ウノー、國分郁子、
ジェン・ライマー&マックス・スタイン

会期: 2023年10月7日(土)～11月12日(日)

会場: トーキョーアーツアンドスペース本郷(東京都文京区本郷 2-4-16)

開館時間: 11:00 - 19:00(最終入場は30分前まで)

休館日: 月曜日(10月9日は開館)、10月10日(火)

入場料: 無料

主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース

協力: ケベック州政府在日事務所、ケベック・アーツカウンシル、センター・クラーク

ウェブサイト: <https://www.tokyoartsandspace.jp/>

<お問い合わせ>

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース (公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 舟橋、市川

TEL: 03-5245-1142 FAX: 03-5245-1154 E-mail: press@tokyoartsandspace.jp

■ 展覧会について

本展では、それぞれ 2017 年から 2019 年にかけて、TOKAS のレジデンス・プログラムに参加した、ジャン=マキシム・デュフレヌ&ヴィルジニー・ラガニエール、ジェン・ライマー&マックス・スタイン、ミシェル・ウノーと、2022 年にケベックへ派遣され滞在制作を行った國分郁子の計 4 組の作品を紹介します。

彼らが過ごした東京は、2020 年に東京オリンピック・パラリンピック大会を控え、東京の街や日本の社会全体がいよいよ大きく変わっていきこうとしていた時期に重なります。彼らはそれぞれ、都市化された労働環境へ順応するために掛かる負荷に苛まれる人々の心理や、そういった環境から少し離れたところで、人々の生活に馴染みすぎているために認識されず気づかれぬまま存在する景色、一方で自然との決別を示すかのように建造される巨大防波堤の様子と人々の心の機微を静かに見つめ、収集し、作品へと醸成させました。

一方、2 年にわたる派遣延期を経てケベックへ渡航した國分郁子は、サーカス、アクロバットなど、ノンバーバル・コミュニケーションを用いた舞台芸術において、世界的評価を得るケベックのパフォーミング・アーツを代表するシルク・ドゥ・ソレイユの舞台を起点に、身体表現によって共有される感情や体験を、演劇的解釈を用いて平面作品へと落とし込みます。制約された動きが生む緊張感と静寂、そして次の瞬間の躍動を融合させ、奥行きのある新たな時空間への展開を目指します。

この 5 年、10 年の間に社会全体や人の意識を大きく揺るがす事象に誰もが直面し、特に世界が一斉に止まらざるを得なかった 2020 年の空白の時間は、身体に刷り込まれた文化や環境でさえも、微かな揺らぎとなって違和として炙り出されるようでもありました。この空白を忘れたかのように、素知らぬ顔をして世界が再び動き出した今日、空間、時間、音、感情、風景を切り取り、編み込んでいった彼らの作品から、本質的に変わったかもしれないものや、変わらなかったことに改めて気づけるかもしれません。

■ 関連イベント

アーティスト・トーク

日時: 2023 年 10 月 7 日(土) 15:00 - 16:30

出演(予定): ジャン=マキシム・デュフレヌ&ヴィルジニー・ラガニエール、ミシェル・ウノー、國分郁子、ジェン・ライマー&マックス・スタイン

最新情報は TOKAS ウェブサイトで発表します。

■ センター・クラークについて

TOKAS との二国間交流事業プログラム提携先であるセンター・クラークは、80 年代からモントリオールのアートの中心であるマイル・エンド地区に位置し、アーティストの自主運営による元工場を改装した複合的なアートセンターです。2 つの展示スペースやオーディオ・スペース、出版部のほか、市内唯一の木材加工スタジオ「アトリエ・クラーク」を併設。同じ建物内にはアーティストのスタジオやデザイン事務所などが入居し、現地のアート・コミュニティのハブとなっています。

参加アーティスト／広報用画像 ※この他にも広報用画像を用意しております。広報担当までお問い合わせください。

ジャン＝マキシム・デュフレヌ & ヴィルジニー・ラガニエール

Jean-Maxime DUFRESNE & Virginie LAGANIÈRE

2018 年度リサーチ・レジデンス・プログラム参加

人間の精神構造への関心と、建築、自然、技術革新を包括する社会の変容を探求するデュフレヌとラガニエールは、日本の高齢者問題における労働者不足の一方で顕在化する労働過多や、協調性が求められる故に負荷となっていく社会的モラルに対する逃避などをテーマにリサーチを進めました。本展では、写真や映像作品からなるインスタレーションで、社会の未来と不確実性を提示します。



1. 《Fukuro》2019 写真

【プロフィール】ジャン＝マキシム・デュフレヌ：フランス生まれ。2006 年ケベック大学モントリオール校コミュニケーション学科実験メディア研究修了。ヴィルジニー・ラガニエール：カナダ生まれ。2006 年ケベック大学モントリオール校コミュニケーション学科ヴァジュアル&メディアアート学科修了。ともにモントリオールを拠点に活動。主な展覧会やレジデンスに、「La où je me terre」(ISELP、ブリュッセル、2023)、「Radiant Mountain」(Foreman Art Gallery、シェルブルック、カナダ、2022)、「La Becque プリンシパル・レジデンシー・プログラム」(ラトウール・ド・ペ、スイス、2022)など。

ミシェル・ウノー | Michel HUNEALT

2017 年度/2022 年度芸術文化・国際機関推薦プログラム参加

ドキュメンタリー写真家であり、ヴィジュアル・アーティストとして活動するウノーは、2012 年の初来日以降、定期的に東北地域を訪れ、その復興状況を記録し、大災害後に再建され変貌していく風景と、その自然との関係を形成しつつける人間社会について考察を重ねています。また、東北での活動と並行して、津波被害を受けなかった日本の他の都市についても、自然と現代性に関するプロジェクトを遂行しています。今回紹介する作品群は、それらがリサーチの経過でもあり、また、芸術的な文脈で展開する成果であると同時に、ジャーナリズムの観点からもドキュメントとは何であり、どこでどのように機能し得るのかを鑑賞者に問いかけます。

【プロフィール】1976 年カナダ・ルパンティニー生まれ。モントリオールを拠点に活動。2004 年カリフォルニア大学バークレー校ラテンアメリカ研究修士、平和構築・紛争予防学研究修了。主な展覧会に、「Péninsule」(Gaspésie Museum、ガスぺ、カナダ、2022-23)、「Incipit Covid-19」(McCord Museum、モントリオール、カナダ、2022-23)、「Vertige: 10 news walls of Tohoku」(Pierre-François Ouellette art contemporain、モントリオール、カナダ、2022)など。



2. 《眩暈：東北の新しい 10 の壁》2020
ドローン撮影映像(4K)

國分郁子 | KOKUBUN Yuko

2022 年度二国間交流事業プログラム〈ケベック〉参加

「地球劇場」をコンセプトに、社会、生命、時空の概念や、人間の内部で起こる心や身体の変化を、演劇的解釈に置き換え、作品に展開させる國分郁子。生まれた環境や文化、慣習に縛られて生活せざるを得ない私たちの社会を既存の文様に見立て、そこから反発するように芽生える柔軟性を、さまざまなモチーフから得たイメージを用いたコラージュで表します。本展では、サーカスの構成要素である「バランスの力学」に焦点を当てて絵画の支持基底面や重心が変化していく作品群を発表します。ひとりの人間が平衡を保とうとする一方で、社会と個のバランスが崩れ、混ざりあっていくひとつの世界観を、平面作品と空間構成で表現します。

【プロフィール】1982 年千葉県生まれ。東京都を拠点に活動。2010 年東京藝術大学大学院美術研究科修了。主な展覧会に、「やわらかな強制」(TS4312、東京、2022)、「VOCA 展 2020」(上野の森美術館、東京)など。

助成：公益財団法人朝日新聞文化財団

ジェン・ライマー&マックス・スタイン

Jen REIMER & Max STEIN

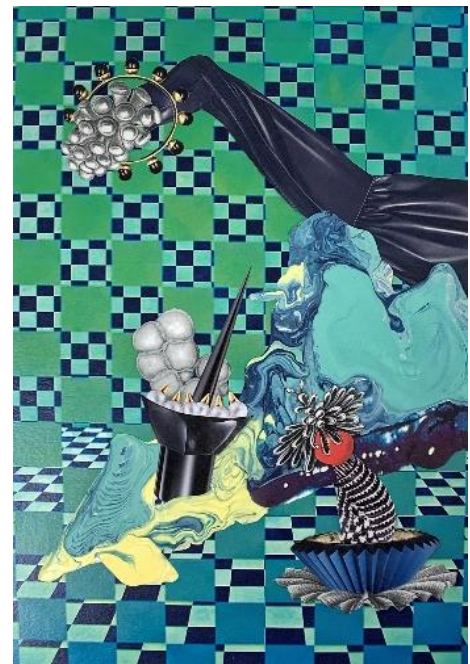
2019 年度二国間交流事業プログラム〈ケベック〉参加

サウンド・アーティスト、ミュージシャンとして活動するライマーとスタインは、サイト・スペシフィックなパフォーマンスやサウンド・インスタレーション、空間レコーディングをとおして、都市環境の共鳴や、音と空間からなる物理的な体験を探求しています。

本展では、2015 年から進行しているプロジェクト・シリーズ『Sounding the City』を発表。周囲の環境や、その場所そのものから発生している音を採集し、その音

環境を再現した装置によって、鑑賞者の耳がその音に集中するように誘うことで、気付かれずにいる都市環境の特徴に目を向かわせます。2019 年に墨田区の工業地帯や河川敷で、明確な音色やテクスチャとして集めた街のざわめきやリズムを、今回の発表に向け、同じ場所に再訪して再録し、新たな展開を試みます。

【プロフィール】ジェン・ライマー：カナダ生まれ。マックス・スタイン：アメリカ生まれ。ともにモントリオールとロサンゼルスを拠点に活動。主な活動に、「Reservoir Lyren」(Sonic Topologies Festival、チューリッヒ、スイス、2022)「Sounding the City」(TOKAS レジデンス、東京、2019) / (Tsunami Arte Sonoro、バルパライソ、チリ、2018)、「Estufa Fria」(Lisboa Soa、リスボン、ポルトガル、2017)など。



3. 《分裂させる何かが通り過ぎる》2022
コラージュ、ペン、鉛筆、アクリル、紙



4. 《荒川—東墨田》2019 サウンド・インスタレーション

「TOKAS Project Vol. 6『凧、揺らぎ、』」
広報用画像申込書

Email: **press@tokyoartsandspace.jp**

Fax 番号: **03-5245-1154**

トーキョーアーツアンドスペース広報担当宛

(ご希望の広報用画像番号にチェックを入れてください)

1 2 3 4

掲載媒体名(特集・コーナー名)

種別 TV ラジオ 新聞 フリーペーパー ネット媒体 その他()

掲載/放送予定日 月 日 発売/放送(月号)

貴社名

ご担当者名

Tel

Fax

E-mail(画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

画像到着希望日 月 日 時頃までに送付

※ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせ及びご要望に対応させていただく目的のみ利用させていただきます。

※お急ぎの場合はメールもしくは、お電話でお問い合わせください。

【注意事項】

※画像データは申請時の目的以外での使用はできません。ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。また、申請時とは別の媒体での使用、再販等の場合は改めて申請してください。

※画像データは、メールにてお送りします。お手元に届くまで1~2日(土日祝休み)ほど頂戴いたしますのでご了承ください。

※作品画像は全図でご使用いただき、トリミング、文字載せはお控えください。必ず所定のキャプション等を併記してください。

※提供した画像データは、使用后速やかに破棄してください。画像が無断で第三者に利用されることのないよう、Web サイトへのご掲載は、画像にコピーガードや転載不可の明記をしてください。

※情報確認のため、事前に記事原稿をお送りください。

※取材の内容が収録された番組等はビデオ・DVD を一部、印刷物(掲載誌・雑誌)については現物を1部もしくはコピーの場合は3部ご送付ください。Web サイトの場合は、掲載時に URL をお知らせください。

<お問い合わせ> ※校正ゲラ及び掲載誌紙・DVD 等は下記宛にお送りください。

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 舟橋、市川

TEL: 03-5245-1142 / FAX: 03-5245-1154 / E-mail: press@tokyoartsandspace.jp